



2020年5月の完成を目指し市民文化会館の建設始まる

市民の豊かな心を育む新たな文化創造の拠点

市民文化会館は「良質な施設機能を備え、柳川らしい水辺を生かした、市民が気軽に利用できる施設」を目指し、8月から上宮永町の市民グラウンド跡地で建設が始まりました。先月1日号の市報に続き施設の概要をお知らせします。【問】市生涯学習課文化係 ☎77・8836

施設の特徴を生かした掘割の創出

市民文化会館の特徴として、大ホールとイベントホールのいずれも、通常は開閉しない後方の壁を開けることができます。例えば、イベント時に大ホールとイベントホール両方の後方の壁を開けると、両ホールのホワイエやロビー、屋外の広場まで、施設全体が一体的につながる大空間が広がります。文化芸術や観光、商業など利用者のアイデア次第でさまざまな用途に活用でき、雨天の影響を受けないイベントスペースが誕生します。この機能を生かしたイベントを行うなど、同施設は新たなにぎわいと多様な交流を生む場としての役割を担っていきます。

掘割を生かした空間づくり

市民文化会館を建設する敷地の北側は掘割に面しています。掘割と市民文化会館の間にウッドデッキや芝生などで構成する広場を設けることで、掘割から遊歩道、広場、ロビーとつながる、水辺を生かした柳川らしい空間が生まれます。

これらの空間にテーブルやイス、ソファ、ベンチを配置することで、誰もが気軽に立ち寄れる、居心地のよい空間をつくり出します。

誰もが使いやすい立ち寄りやすい、優しい施設

市民文化会館は誰もが「利用しやすい優しい施設」となるよう配慮しています。

大ホールには小さな子ども連れでも、周りに気兼ねなく舞台芸術などを鑑賞できるように、親子席を設けています。この他、目の不自由な人が施設の入口に来たことを事務室に知らせる磁気センサーシステムや耳の不自由な人に、大ホールの鑑賞事業を楽しんでもらえるよう、赤外線を活用した補聴システムを導入することにしています。

市民文化会館をどう使うかが大事

市民文化会館は、文化の薫り高い柳川にふさわしい新たなシンボル。その整備事業は、文化を生かしたまちづくりを進めるために、市の新たな文化芸術交流拠点を創出する、

事業費約49億円を超える一大事業です。近年、住みよい町をランキング化するアンケートが多く見られますが、その中に、文化施設や文化活動の状況などを評価する項目が並びます。定住先を選ぶ際に、文化施設や文化活動の充実が、選択する際の要因の一つになっていることが分かります。

日本社会が成熟化し、価値観が多様化する中で、人々の関心は、物の豊かさから心の豊かさへと移ってきています。質の高いものを見て、聞いて、体験し、学び、自らを高めていく先に、潤いと豊かさで満たされた生活が見えてきます。

市民の皆さんをはじめ、施設利用者にも、そのような気持

まず、施設の入口からロビーなどの共有スペース、大ホール、イベントホールの客席まで段差をなくすことで、車椅子の人や高齢者が安心して移動できるようにします。また、大ホールには車椅子専用席を設けます。

トイレは、利用者向けに4か所設けますが、特に大ホール利用時には、女子トイレの混雑が予想されます。そのため、空気調和・衛生工学会の「衛生器具の適正個数算定法」に基づき、便器の数を計算しました。同学会が示す、待ち時間が少ない良好な環境「サービズレベル1」の基準をクリアしており、男女のトイレをいづれも快適に利用できます。また、身体障がい者向けの多機能トイレを1階に3か所設けます。

ちを持つてもらうための手助けをしたい、役に立ちたいと建設するのが、この市民文化会館です。ただし、どんなに立派な施設でも、その運営が悪ければ、何にもなりません。

近年、久留米市や八女市、本市と姉妹都市でもある大分県竹田市に素晴らしい施設が建設されています。また、筑後市や宗像市など運営の手法となる施設が県内に複数あります。本市でも、開館に向けてこれらの調査を進めると共に、並行して市民の意見を聴きながら、本市の実情にあった運営ができるよう準備を進めていきます。工事中は、地元をはじめ市民の皆さんにいろいろと迷惑をかけると思いますが、ご協力をお願いします。



▲大ホールのイメージ図

▶市民や観光客が気軽に立ち寄れる共用ロビー。北側（図左）が掘割に面していて、憩いや歓談の場として利用できます



多くの人が利用する市民文化会館に



市民文化会館管理運営計画検討委員会委員・合唱団うぶすな 団長

姉川章二さん（旭町、64歳）

新しい市民文化会館は、800席の大ホールを使うには大きすぎるとい団体にとって200席のイベントホールがあるのはありがたいですね。イベントホールは、大ホールを使う前のリハーサル室としても使えます。

市民文化会館は、市民の皆さんにいっぱい利用してもらわないといけません。施設を募集するなど、市民の関心を高めたり、施設を支えるサポーターやボランティアを養成することで、いろんな人が関わるしかけづくりをすることも必要です。完成まで、あと1年半。市民文化会館の完成が待ち遠しいですね。